

関係者各位

関西電力大飯発電所3、4号機に係る情報がありましたのでお知らせします。

昨日(8月16日(木))発生した海水淡水化装置の起動排水槽から水があふれた件の続報です。

排水槽からあふれ、側溝に貯まっていた水については、排水が行えるように中和処理を行いました。

排水のpHが高くなった原因は、起動排水槽の水位計の不調が発生したため、昨日17時頃から水位計の健全性確認を行っていましたが、起動排水槽にあるpH計に空気が混入する等の要因により、pH計の数値が低い数値を示し、pHを上げる薬品が自動的に注入されたため、排水のpHが高くなったものと推定されます。

また、起動排水槽から水があふれた原因は、pHが高い排水を排水監視槽から起動排水槽に戻す運転状態において、警報が発生した際の具体的な手順が明確でなく、排水監視槽のポンプを直ちに停止しなかったためと推定されます。

起動排水槽の排水は、別の排水監視槽においてpHが管理値(5.8から8.6)内であることを監視しながら海へ排水しており、pHが管理値を超えた場合は、自動的に海への排水から起動排水槽へ戻る運転状態へ切替る仕組みになっている。

今後、警報発生時には排水ポンプの運転を停止するよう運転マニュアルの運転手順に明確にする等の対応を行う予定です。

以上